

1000社超がエントリ

国内クレジット利用も続々

産廃業界のCO₂削減

産業廃棄物処理・リサイクル業界で、CO₂などの温室効果ガス削減の取り組みが加速している。(社)全国産業廃棄物連合会(國中賢吉会長)が昨年11月に開始した「CO₂マイナスプロジェクト」の一環として、処理業者が自社の事業について行ったCO₂などの削減量をWe b上で算出する事業にエントリした処理業者の数が3月に入って当面の目標とした1000社を超え、3月中旬現在で1100社以上になった。CO₂削減の手法の一つである国内クレジットを利用する処理業者も増えている。数ある産業界の中でも先進的で実質的な「特筆すべき取り組み」として、国からも注目されている。



明らかにCO₂減へ(昨年11月のプロジェクトキックオフのひとこま)

男山が創出した25社の国内クレジットを購入した。今後は国内クレジットの購入を進めていき、同社の施設での電気使用量を計算し、そ

れにより排出されているCO₂を削減するためにカーボンオフセットを実施する予定としている。貴金属、希少金属を含む金属含有製品のリサイクル事業や基板事業、リサイクル事業を手掛ける興栄商事は、全事業所でのエネルギー使用に伴うCO₂排出量の25%を、男山からの国内クレジットでカバー。男山から

排出が対象となる。月ごとに電力ガス、上下水道、ガソリン、軽油の使用量から、事業に伴うCO₂排出量を測定、「見える化」して、そのうちの25%をカーボンオフセットで削減する。オフセットされるCO₂排出量は毎月約10〜12t程度年間では140t程度になる見込みという。

かばんメーカーのACBとともに、不要になったスーツケースを回収し、これを原料にして廃棄物燃料を製造し、石炭やコークスなどの化石燃料の代替として、大手製紙会社などを利用するなど、さまざまなCO₂の排出量削減を行っている。

産業廃棄物・一般廃棄物の収集運搬と産業廃棄物中間処理、再生資源リサイクルなどを手掛けるカネダは、従来から使用していた京都議定書に則ったニューシールド政府が保有する森林吸収源による排出枠(AAU)にオフセット量は6.7tを使用することにした。毎月の廃棄物量に応じて、千代田クラブで創出された国内クレジットを用いる。

連合会のプロジェクト

(社)全国産業廃棄物連合会の「CO₂マイナスプロジェクト」は、産業廃棄物処理業界が取り組んでいる温暖化防止対策について、CO₂の削減を「目に見える」ものにして、環境産業の一翼を担う処理業界の姿勢をアピールする。削減量自体を競うのではなく、それぞれの業者がエントリしたかや、優秀な取り組みなどを紹介する。製品のメーカーなどとの共同の取り組みも重視している。

量が計算されるというシンプルなもの、取り組みの前後に比べてどれだけ削減がなされたかを把握することが出来る。環境省や経済産業省が定めた算定式をベースに算出する方法で、各社がCO₂削減の取り組みと削減量などを盛り込んだ報告書を作成する。プロジェクトの進捗よくについて、(社)全国産業廃棄物連合会青年部の加藤宣行会長は「全国会員各社の深い理解があったこと、損得で考えるよりも善悪で考えるこの業界の行動を、い

産業界も注目の取組

日本国内で他業界の会社が行ったCO₂削減分を、自社の廃棄物処理・リサイクル事業で発生するCO₂削減分として購入し、カーボンオフセットに充てる国内クレジット制度を導入する処理業者も現れた。加藤商事(本社・東京都東村山市、加藤宣行社長)と興栄商事(本社・横浜市、岩本守社長)は、酒造会社の男山(北海道旭川市)がポイラー更新で創出した国内クレジットを購入

た国内クレジットを購入。萬世リサイクルシステムズ(本社・横浜市、藤枝慎治社長)とカネダ(神奈川県藤沢市、金田勝俊社長)は大手印刷会社の千代田クラブ(本社・東京都)がポイラーの高効率化などで得られた国内クレジットを購入した。これらにかかわる排出量は、カーボンフリーコンサルティング(本社・横浜市、中西武志社長)がクレジットを代理償却する。

産業廃棄物・一般廃棄物の収集運搬・中間処理、リサイクルなどを手掛ける加藤商事は、男山が創出した25社の国内クレジットを購入した。今後は国内クレジットの購入を進めていき、同社の施設での電気使用量を計算し、そ

れにより排出されているCO₂を削減するためにカーボンオフセットを実施する予定としている。貴金属、希少金属を含む金属含有製品のリサイクル事業や基板事業、リサイクル事業を手掛ける興栄商事は、全事業所でのエネルギー使用に伴うCO₂排出量の25%を、男山からの国内クレジットでカバー。男山から

排出が対象となる。月ごとに電力ガス、上下水道、ガソリン、軽油の使用量から、事業に伴うCO₂排出量を測定、「見える化」して、そのうちの25%をカーボンオフセットで削減する。オフセットされるCO₂排出量は毎月約10〜12t程度年間では140t程度になる見込みという。

かばんメーカーのACBとともに、不要になったスーツケースを回収し、これを原料にして廃棄物燃料を製造し、石炭やコークスなどの化石燃料の代替として、大手製紙会社などを利用するなど、さまざまなCO₂の排出量削減を行っている。

産業廃棄物・一般廃棄物の収集運搬と産業廃棄物中間処理、再生資源リサイクルなどを手掛けるカネダは、従来から使用していた京都議定書に則ったニューシールド政府が保有する森林吸収源による排出枠(AAU)にオフセット量は6.7tを使用することにした。毎月の廃棄物量に応じて、千代田クラブで創出された国内クレジットを用いる。

プロジェクトのホームページから簡単にエントリでき、燃料や電気の使用量を打ち込むと自動的にCO₂換算の温室効果ガス発生